

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【公表番号】特表2001-511256(P2001-511256A)

【公表日】平成13年8月7日(2001.8.7)

【出願番号】特願平10-538684

【国際特許分類第7版】

G 01 N 30/96

B 01 D 15/04

B 01 J 41/06

B 01 J 41/14

C 08 F 8/30

【F I】

G 01 N 30/96 A

B 01 D 15/04

B 01 J 41/06

B 01 J 41/14 H

C 08 F 8/30

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月3日(2005.3.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

17.3.3

平成 年 月 日

特許庁長官 小川 洋 殿



1. 事件の表示 平成10年特許願第538684号

2. 補正をする者

事件との関係 出願人

名 称 ダイオネックス コーポレイション



3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号  
電話(代) 3211-8741

氏 名 (5995) 弁理士 中 村 稔



4. 補正命令の日付 自 発

5. (本補正により請求の範囲に記載された請求項の数は合計「14」となりました。)

6. 補正対象書類名 明細書

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容 別紙記載の通り

## 請求の範囲

1. (a) 合成樹脂支持粒子；及び  
(b) 前記合成樹脂支持粒子に結合したアニオン交換化合物；  
を含むアニオン交換クロマトグラフィー用組成物であって、前記アニオン交換化合物が鎖を含有し、該鎖が、(i)該鎖に対して内部の反応基であって、エステル、ケトン及びアミド基からなる群より選択される反応基と、(ii)該鎖に対して末端のアニオン交換部位であって、第四アンモニウム塩からなり、該塩が、それと接する溶離液に存在するアニオンと相互作用可能であるアニオン交換部位とを含有し、かつ前記第四アンモニウム塩の窒素原子が、少なくとも4原子長さのリンカーによって前記内部反応基から分離されていることを特徴とするアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
2. 前記内部反応基がエステル基である、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
3. 前記リンカーが、4～約13原子長さである、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
4. 前記リンカーの少なくとも1個の原子が、アルキル、アルコキシ、ヒドロキシアルキル及びヒドロキシルからなる群より選択される基で置換されている、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
5. 前記第四アンモニウム塩の窒素原子が、アルキル及びヒドロキシアルキルからなる群より選択される少なくとも1の基で置換されている、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
6. 前記アニオン交換化合物が、前記合成樹脂支持粒子に共有結合で直接結合されている、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
7. 前記アニオン交換化合物が、前記合成樹脂支持粒子の表面に沈着されたラテックスポリマーに取り込まれている、請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物。
8. 重合されたモノマー単位を含むラテックスポリマーであって、前記モノマー単位の少なくとも1個が鎖を含有するアニオン交換化合物であり、該鎖が、

(i) 該鎖に対して内部の反応基であって、エステル、ケトン及びアミド基からなる群より選択される反応基と、(ii) 該鎖に対して末端のアニオン交換部位であって第四アンモニウム塩からなり、該塩がそれと接する溶離液に存在するアニオンと相互作用可能であるアニオン交換部位とを含み、かつ前記第四アンモニウム塩の窒素原子が、少なくとも4原子長さのリンカーによって前記内部反応基から分離されていることを特徴とするラテックスポリマー。

9. 請求の範囲第1項に記載のアニオン交換クロマトグラフィー用組成物を含んで  
なるアニオン交換クロマトグラフィー用のクロマトグラフィーカラム。

10. アニオン交換クロマトグラフィー組成物を含有するクロマトグラフィーカラ  
ムを溶離液と接触する、該溶離液中に存在するアニオンの混合物からアニオン  
を分離する方法であって、前記アニオン交換クロマトグラフィー組成物が以下  
の成分：

- (a) 合成樹脂支持粒子；及び
- (b) 前記合成樹脂支持粒子に結合したアニオン交換化合物；

を含有し、前記アニオン交換化合物が鎖を含有し、該鎖が、(i) 該鎖に対して  
内部の反応基であって、エステル、ケトン及びアミド基からなる群より選択さ  
れる反応基と、(ii) 該鎖に対して末端のアニオン交換部位であって、第四アン  
モニウム塩からなり、該塩がそれと接する溶離液に存在するアニオンと相互作  
用可能であるアニオン交換部位とを含有し、かつ前記第四アンモニウム塩の窒  
素原子が、少なくとも4原子長さのリンカーによって前記内部反応基から分離  
されており、アニオン交換が前記末端アニオン交換部位で起こることを特徴と  
する方法。

- 11. 前記リンカーが、4～約13原子長さである、請求の範囲第10項に記載の方法。
- 12. 前記第四アンモニウム塩の窒素原子が、アルキル及びヒドロキシアルキルか  
らなる群より選択される少なくとも1の基で置換されている、請求の範囲第10  
項に記載の方法。
- 13. 前記第四アンモニウム塩の前記窒素原子が、2個のメチル基及び1個のエチ  
ル基で置換されている、請求の範囲第12項に記載の方法。
- 14. 4,5-エポキシペント-2-イル メタクリレート。